

**#376 ウクライナ戦争があぶり出す日本の危機～国防と個人の問題を切り分けよ**

## マタイの福音書 5章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

\*---\*

皆さん、こんにちは。YouTube にチャンネルを合わせていただき、ありがとうございます。  
今日は2月27日 日曜日です。私は2日前の25日 金曜日、この場所のレディースタイムで、不安を軽減する・不安を解消する、それを聖書の知恵に聞く、ということで聖書のお話をしました。  
なぜそんなテーマにしたのかというと、金曜日の朝起きた時、自分の中に何とも言えない不安感というか、危機感みたいなものが、湧いて来て湧いて来て仕方なかったんですね。

朝起きた時、ロシア軍がウクライナに攻め込んで来た！というニュースが飛び込んで来たんです。  
現地時間2月24日、ロシア軍がウクライナに突入した。ウクライナ戦争の始まりですね。  
私はそれを見た時2つのこと…危機感というか、何とも言えない思いになりました。

ウクライナの首都はキエフ。国境から90キロあります。そのキエフまでたった1日半ですよ。  
あっという間に、首都陥落一歩手前まで行ったんです。  
正直言って、「ウクライナって、なんぼ呑気な国なんだ？」と思いましたね。言っちゃ悪いけど。  
ロシア軍がウクライナの国境に10万人の兵隊を並べたの、いつですか？ 去年の3月ですよ。  
すなわち、10万人のロシア軍の国境配備は1年前から始まっていることで、今日のこの戦争の日を迎えるまで1年間の準備期間があった。

しかし、90キロもあるのに、1日半で首都に到着するってどういうことか。途中でバリケードが1つもない。戦車が通れないように障害物を置くということが全然ない。地雷原を敷くということが全くない。  
それどころか2月に入っても、ウクライナのゼレンスキー大統領（1978-）も国防大臣も、「戦争があるなんて、あまり言ってくれるな。それは結局ロシアを煽ることになるから」と最初は言ってたんです。  
それで一旦戦争が始まったら、あっという間に押し込まれてる。今はまた前線で押し返しているという  
か、膠着状態が続いてるんですけど。

プロの軍人が、なんでこんなに簡単に押し込まれてしまうんだろう。ウクライナって呑気なんだろうか。  
いや、そうじゃないでしょう。なぜこんなに一方的に押し込まれたのか。  
おそらくロシアの工作が、ウクライナの軍や議会の内部に入っていると思います。  
日本の政治家の中に親中派がいるように、ウクライナの軍の中に、また議会の中にも、既にロシア軍の工作部隊が潜伏していると思いますよ。だから、まともな情報が入っていなかった可能性が十分あると思います。でもウクライナは被害者なので、日本のことがダブって、「しっかりしてくれ！」という気持ちがあります。

もう1つ。この危機感が私の中に沸き起こって来たのは、なんと言ってもプーチン（1952-）です。  
ロシア人とウクライナ人は同じ東スラブの兄弟民族ですよ。兄弟に向かって、血を流す戦争を一方的にするということに何の迷いもない。武力で国境の変更を強引に推し進めようとしている。  
これは国際法違反。国連憲章にも違反しています。  
しかし、手前勝手な歴史観で国際秩序に挑戦して、武力で言うことを聞かせようと。  
それが今、このメッセージをしている最中でも起こっているんです。

ウクライナにはぜひ頑張ってもらいたい。というのは、3月になったら雪解けが始まって、ウクライナに入れているロシアの戦車が身動きできなくなりますね。勝たないまでも、長引かせることによって状況を変えることができるので、何とか踏ん張ってもらいたいと思います。

ウクライナ。遠い国のことと思ったら大間違い。実はウクライナに攻め込んだロシアって、日本の隣国ですよ。隣国ロシア。プーチンは2018年に何と言ってますか？

ナザレンコさんによると、「北海道のアイヌ民族は、ロシアの先住民族だ。」

今回ウクライナに、“ウクライナのロシア系住民を守るため”という名目が入ったじゃないですか。

「北海道に住んでいるアイヌの人たちは、実はロシアの先住民族だ。」

“アイヌの人たちを保護するため”ということ、北海道に乗り出してくる口実に使う可能性が十分あるということですよ。

そして、ロシアよりももっと恐ろしい国がある。中国ですよ。中国は今何と言っているか。

「沖縄は、前は琉球王国だったよね。佐藤栄作の時代に沖縄返還があったけど、あれは不当だ。沖縄は元々琉球王国で、その時代は、清帝国に対して朝貢外交（貢物を清にお献げし、返礼として宝物を持って帰る）、主君と部下の関係にあった。」

中国もロシアも失地回復主義なんです。だから、“琉球王国という元中国のものだった場所を保護し、取り戻すため”という名目が入って来る可能性が当然あるわけです。

この厄介な専制主義の2つの国が今 急接近でしょ。皆さん、覚えてはりますか？

2011年3月11日、東日本大震災。あの時、一番活躍した組織は自衛隊です。

自衛隊が被災した東北地方に入って、救出活動、瓦礫の片付け、或いは暴走する原発を抑えるために大活躍したのですが、その結果、その時の日本の国防力は落ちました。

自衛隊が救出活動に兵力・マンパワーを割かれている時、何がありましたか？

北からはロシアの軍用機、南からは中国の軍用機が、まるで示し合わせたかのように、日本の防空識別圏の所を何回も回ったじゃないですか。完全にリンクしてますよね。

中国とロシアが急接近ということで、今ウクライナの身の上にかかっていることは、明日の日本の姿ですよ！

その日本において、指導者どうなってるんだ？と。

指導者の悪口は言いたくない。しばしば言っちゃってしまってるんですけど。

西側が団結して「ロシアに経済制裁しないと駄目だ！」と言っている時に、日本の外務大臣は日ロ経済協力会議に出席してましたね。ようやく「あれは侵略だ」と言ってるけど、「プーチンに対して個人的制裁するんですか？」「もごもごもご…」今すぐ準備すべきですよ！

プーチンという男は、“主権国家とは核兵器を持っている国”であって、持ってない国は主権国家と認めていないフシがありますね。日本は、自分の身は自分で守れるだけのものを揃えるべきです。

そして集団的自衛権、完全に軍事同盟を作っていくことができるようにするために憲法9条の改正。

これは、東住吉キリスト集会の公式見解ではありませんよ。私の個人的な意見です。

今それしないで、さっき「ウクライナ 呑気だな」と言いましたが、日本どうなりますかね、これ。

・・・ということを考えていった時、不安感と危機感で、「何かしないと駄目だろう。日本は少なくとも、自分の身に降りかかってくる火の粉は 自分で払いのけないと駄目だろう」と思いました。

ところが、そういうことを言うと必ず、「それって聖書的なんですか？ 聖書にこんな言葉がありますよね。『あなたの敵を愛しなさい。』」  
イエス・キリストが仰った有名な聖書の箇所を引用して、色々コメントを送って来る方がいるんです。私も YouTube の個人チャンネルをやっているんで、そこにバンバン入って来る。  
今日は、その箇所をまず見たいと思います。

イエス・キリストの“山上の垂訓（さんじょうのすいくん）”と言われている非常に有名な箇所ですよ。  
「イエスの言葉で何を知ってはりますか？」と聞いたら、この言葉を挙げる人が多いと思います。

### マタイの福音書 5 章

**38. 「目には目を、歯には歯を」と言われていたのを、あなたがたは聞いています。**

**39. しかし、わたしはあなたがたに言います。**

**悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。**

**40. あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着も取らせなさい。**

**41. あなたに一ミリオン行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。**

**42. 求める者には与えなさい。借りようとする者に背を向けてはいけません。**

「高原さん、クリスチャンですよ。イエス・キリストの言葉は正しいと信じておられるんですよ。そのキリストは何と仰いましたか？ **あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。**  
憲法 9 条改正して軍備増強するって、クリスチャンとしてそんなこと言っているんですか?!」とよく言われるんです。今日、ここから 3 つのポイントでお話したいと思います。

**1) 聖書は国防を禁じていない。**

**2) 今読み上げたみことばの、間違った解釈とイエス・キリストの解釈の違い。**

聖書は正確に読まないと、とんでもない悲劇を生みます。解釈者の間違った解釈によって、神が命じてもないことを神の命令だと考えて、悲惨な結末に至ることがあると思いますよ。

イエスはこの言葉の意味をどういう意味で言われたのか。

**3) 恨みからの解放。**

今日は天満橋倶楽部ではなくて福音集会なので、国際情勢のことをずっと言うことはしません。福音を語りしたいと思います。

**1) 聖書は国防を禁じていない。**

**あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。**

**あなたに一ミリオン行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。**

これを国防に当てはめて、「ウクライナは、ドンバス地方を取られたらキエフまで差し上げなさい」とか「日本は、ロシアに北方四島取られたら、北海道全体を差し上げることがキリストの御心である」とか「中国がもし沖縄を取ったら、沖縄だけでなく九州全部を差し上げなさい」とか、そんなことは聖書は言っていない。

これは国防について語ってるんじゃない。国防とは、敵が攻めて来た時に国民・国土を守ることです。国民を守るということは、国民の命を守ることです。

聖書は命を守ることを禁止するようなことは語っていません。命を救うように語っているのです。

ですから、この言葉を国防に当てはめて、「どんな敵が攻めて来ても、どんな侵略戦争があったとしても、日本は無抵抗主義を貫きなさい」と言っているのではないんです。命は守らなければなりません。

自分の命くらい自分で守るべきです。よその国を当てにしていたら、ウクライナのようになります。我々は最低限、自分のことは自分でしないと駄目ですね。それが出来ないならば、それを出来なくさせている法律があるならば、その法律は間違っていると思いますよ。

## 2) みことばの、間違った解釈とイエス・キリストの解釈の違い。

ここでは、当時のユダヤ人たちの解釈とキリストの解釈が真っ向から対立している。このみことばの本当の意味は何なのか。キリストの聖書解釈、聖書解説は何なのか。

まず、間違った解釈から行きましょう。

38. 「目には目を、歯には歯を」と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

“「目には目を、歯には歯を」と書かれていたのを、あなたがたは読んでいます”と書いてないんです。言われていたのを聞いています。当時ユダヤ人たちには、聖書以外に、聖書と同じくらい権威を認めているものがありました。

聖書は旧約聖書と新約聖書の2つに分けられます。

旧約聖書はイエス・キリストが来る前に書かれた39巻で成り立っている神の言葉。

新約聖書は27巻で、イエス・キリストが来られた後、イエスこそがメシアであると立証している聖書。ユダヤ人たちはイエスをメシアと認めていないので、新約聖書を認めてません。

イエスは旧約聖書に基づいて登場したメシアなのに、旧約聖書を信じていたユダヤ人はなぜ拒んだのか。不思議だと思いませんか？旧約聖書を丸ごと信じていたら、イエスはメシアだと明確に分かる。イエスはそのような証しをなさったんです。

しかし、ユダヤ人たちは旧約聖書を信じていながら、イエスはメシアではないと結論付けました。旧約聖書以外に、聖書と同じ権威を認めるもの～『口伝律法／ミシュナー』があったからです。

口伝律法は口伝え。だから、イエスがおられた当時は文書化されてません。口伝えなんだけど、その中身は聖書と同じ権威、ある部分においては聖書以上の権威を持って認められていたんですね。

口伝律法は誰によるのか？色んなラビが「聖書の解釈はこうだ、こうだ」ということで、聖書に書いていない自分たちの意見が膨大な量になり、それを暗記して口伝律法としていたんです。

その中にこの言葉があるんです。「目には目を、歯には歯を」

これを口伝律法では「もし目をやられたら、相手の目を潰す復讐をして良い。歯を折られたら相手の歯を同じ数折って良い。」復讐して良い根拠として、この言葉を使ったんです。

私的な復讐。恨みを晴らすこと。仇討ち。それをこの言葉を使って、口伝の中では肯定していたのです。ところがイエス・キリストは、「あなたがたはそう聞いているけど、それは聖書の正しい解釈ではない。」

「目には目を、歯には歯を」は口伝律法の中で言われていますが、旧約聖書に3回出て来ます。3回とも同じ使い方です。2箇所見ましょう。

### 出エジプト記 21章

22.人が人と争っていて、身ごもった女に突き当たり、早産させた場合、重大な傷害がなければ、彼はその女の夫が要求するとおりの罰金を必ず科せられなければならない。

彼は法廷が定めるところに基づいて支払う。

23.しかし、重大な傷害があれば、いのちにはいのちを、

24.目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を、

25.火傷には火傷を、傷には傷を、打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない。

償わなければならない。つまり、これは復讐法ではないんです。復讐は被害者が加害者にやり返すこと。しかし、加害者が被害者にいかほどの償いをすべきかということを書いているのが聖書の言葉なんです。「やられたらやり返せ」ではなく、「やった人は、法廷の決定に基づいてちゃんと賠償しなさい。」償うという基準を定めているのが「**目には目を、歯には歯を**」なんです。

もう 1 箇所。法廷でのルールについて書いてあります。法廷で一番大事なのは、嘘の証言をしてはいけないこと。でも、嘘の証言をする人が出て来ます。そこで、**申命記 19 章**

- 16. 悪意のある証人が立って、ある人に不正な証言をする場合には、
  - 17. 争い合うこの二人の者は主の前に、その時の祭司たちとさばき人たちの前に立たなければならない。
  - 18. さばき人たちはよく調べたうえで、もしその証人が偽りの証人であり、自分の同胞について偽りの証言をしていたのであれば、
  - 20. あなたがたは、彼がその同胞にしようと企んでいたとおりに彼に対して行い、あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。
  - 21. あわれみをかけてはならない。
- いのちにはいのちを、目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を。**

ここでも、「悪を行った者に償いをさせなさい」と言うのですが、罰を執行するのは不正な証言をされた人じゃないんです。さばき人（裁判官）たちはよく調べたうえで、法廷がしなさい。「私的な恨みを晴らすな」と言っているんですね。

日本では、私的な恨みを晴らすのが美德とされていた時代がありましたね。忠臣蔵。仇討ち。忠臣蔵も最終的には罰せられる。日本では、個人的復讐が美德とされていた時代がありました。近代国家ではそれはアウトです。娘殺されたから犯人殺す！・・・それで犯人を殺したら、もちろん犯人は娘さんを殺したことで罰を受けますが、その犯人を殺した親も罰を受けるんですよ。罰を下すのは公的機関でなければならない。私が／個人が私的な恨みに基づいて復讐することは、近代国家においてはアウトです。

何年か前にあるプラモデル屋さんで、すごいレアもののプラモデルが万引きされました。万引きシーンが店内の監視カメラに映っていたので、“1 週間以内に戻したら OK です。でも、1 週間以内に戻さなければ、監視カメラにきれいに映っているあなたの顔をホームページで晒します。あなたの顔は世界中で見られるようになります。それが嫌なら、1 週間以内に盗んだ物を返してください。” お店に張り紙したんです。

この事件どうなりましたか？ 覚えてはりますか？ 警察がストップしました。犯人にも人権があると。犯人がやったことは確かに悪い。しかし、悪いことを悪いと判定するのは裁判所。取り締まるのは警察。個人が個人に対して復讐する・危害を加える・制裁するのは私的制裁で、近代国家ではアウト。

なぜ近代国家では、復讐してはいけないのか。復讐したら、復讐された人の遺族の誰かがまた復讐するからです。そしたらまた「元々お前が悪いんだ」ということで復讐する。負の連鎖が延々と続くんです。だから、近代国家では復讐は公に任せるのです。

それを 3500 年前の**申命記**や**出エジプト記**に書いてあるんですよ。聖書ってどうよ！ すごくない？ 人間の性質や人権や、ありとあらゆるものを勘案した神の知恵！ 聖書はスゴイ！

「悪を行った者は公の判断に任せて、その判断に応じて償いなさい」という意味で「目には目を、歯には歯を」だったのに、いつの間にか復讐してもよいと。聖書の言葉を悪用して個人的制裁を肯定したのです。それに対して、「聖書はそんなこと教えてないでしょ」とイエス・キリストは訂正されているんです。

旧約聖書の預言を見ると、もしメシアが来たなら、聖書の言葉を正しく解釈してくださる・解き明かしてくださると書いてある。それを今なさってるんです。

「目には目を、歯には歯を」の本当の意味は、恨みを晴らすことではなく、ひと言で簡単に言うと「恨みを手放しなさい。」

法廷においてジャッジされた後で、それでも納得しない被害者の意識ってあるんじゃないですか。例えば、「やった犯罪に対して罰が軽すぎるんじゃない？ こんなに酷い事して、たったこれっぽっちの罰金。たったこれっぽっちの懲役。いい加減にしろ！」みたいな。日本では、殺人は2人までは死刑にならないじゃないですか。殺された人たちの家族、どんな気持ちですか。「えっ、そんなんですか?! それでおしまい？」

ヒトラーみたいに何百万の人たちを殺した人物に対しても、人間が与えられる罰の上限は死刑でしょ。しかも、彼は死刑になってない。自殺したから。

たとえ法廷でジャッジがあったとしても、わだかまったまま赦せない…。「これで一件落着にされてるけど、身内の気持ちとしてはどうにも納得できん！」という、もう恨み辛み、忘れ難い苦々しい思い出。そういうものを捨てなさい。恨みを置きなさい。恨みから解放されようではないか。そういうことを言っているんだという解釈なんです。それが、39.悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。

### 3) 恨みからの解放

3つ考えたいと思います。

①とても大事なことです。ここに書かれている“山上の垂訓のメッセージ/教えを実行できなければクリスチャンになれない”と言っているのではありません。

38.「目には目を、歯には歯を」と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

あなたがたの大部分は弟子ですよ。

「立派な聖書の教えを完璧に守ることができたら、キリストの弟子になれます。」そうではない。

「人を赦すことができたら、初めて神に赦されます」そうではありません。

「罪を犯さなくなったら、今までの罪は目をつぶってもらえます。」そうではありません。

人は、自分で自分を正しくすることはできないです。

自分で自分を救うことができない。赦すことができない。受け入れることができない。

だからこそ、私にはキリストが必要です。こんな私に憐れみを与えて助けてください。

神の基準に触れた時初めて、「こんなにも神の聖さの基準は高いのか。今の私では、とてもじゃないけど資格を満たすことができない。神よ、だからこそ私にキリストを与えてください」とキリストに至らせるための養育係。これが律法の役割ですね。なので、「人を赦せないから、私 もう罪赦されへんわ」と思わないでください。そんなことを聖書は語っていませんから。

②悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。

これは絵画的に表現していると思いますね。というのは、普通こんなことは出来ないからです。大抵の人は右利きです。カーツとなって相手を張り倒す時 利き腕でほっぺた打つと思いますが、右手で打つことが出来るほっぺたって何ですか？ 相手の左側のほっぺたでしょ。自分から見て右は、相手から見れば左。右手で相手の右のほっぺた はたこう思ったら、手の甲で打たないとダメですよ。難しいですねえ。これは、むしろ絵画的な、聞いた人が鮮明に分かるような言い方をしているのです。

ここでキリストが言われているのは、「いかなる状況の中でも 人は祝福を選ぶことができる。人よ、あなたには幸せになってほしい」ということだと思います。ちょっと説明が必要ですね。悪い者が悪をするのを、私たちは止めることはできません。人は他人を変えることはできないからです。人がコントロールできるのは自分の行動だけです。自分以外の人の行動はコントロールできません。過去と他人は変えることができないんです。

右の頬を打たれるような、非常に侮辱的な行為を受けた。酷い目に遭った。人が私に酷い事をするのをコントロールする力は私にはないけれど、酷い事をされた私は、どう反応するかを自分で選べるんです。人は人がすることをコントロール出来ませんが、自分の行動だけは選ぶことができる。

なぜこんな話をするかという、昨日 子育てサロンという場で、選択理論ということをお話したんです。動画がアップされたら、よければご覧になっていただきたいなと思います。

『選択理論』は、28歳で精神科医になったアメリカ人のウィリアム・グラッサー博士（1925-2013）が提唱した方法です。彼が28歳で勤務した精神病院に色々な患者がいて、それぞれの生き立ちが凄まじい。そら、ぐれるやろ。そら、ひねくれるやろ。そら、いじけるやろ。同情を禁じ得ないというか、酷い酷い過去・生き立ちを少年時代にくぐっている方がすごく多い。

だけど、ある時ふと疑問に感じました。その病院に入院している患者は毎日、今の自分の苦痛や無気力さや鬱々した気持ちを訴えて来ます。それが異口同音に、当然のように、体調や気分が悪いのは全部「過去のアイツのせい。」「生き立ちのせい。」「社会が冷酷で、手を差し伸べてくれなかったせい。」「家族が酷かったせい。」「今の状況になったのは100%過去と他人が悪いのであって、自分は全く悪くない」と考えていたんです。

最近よく“親ガチャ”言いますよね。どの親に生まれるかを子供は選ぶことができない。私は3月から日本全国を回ります。関東一円、埼玉・群馬・茨城。四国に飛んだり、大阪に戻ったり。色々な所を回りますが、キリスト伝道者は来会者を選ぶことができません。“来会者ガチャ”。悪い意味で言ってるんじゃないですよ。

すごく整えられて好意的な人…ばっかり来てほしいなあと思いますけどね、いやいやいやいや。全然聞く気ないのに奥さんに頼み込まれて、無理やり引っ張って来られたご主人の、もう怒っている様子がピンピン伝わってくる状況の中でお話しするって緊張しますよ。しまいには、集会中 怒鳴りつけられたりね。ある時は、私のメッセージ気に入らん言うて、空気銃で狙いつけ回されたことがあります。空気銃かて、当たり所悪かったらヤバイですよ。

良いことばかりじゃない。選べない。ガチャや。だから「神様は何をしてくださるのかなあ」と神にしがみつきますし、祈るし。神様の思いもかけない逆転劇を経験して「良かった…。神は生きておられる。」

「俺の生まれた環境が悪かった。アイツのせい。コイツのせい。ソイツのせい。それで俺はこんなになってしまったんだ！」 精神病院の患者たちがグラッサー博士に、不満をもういっぱい言うんです。

その中で、あることに気がついたんですね。「あなたはどんな生き立ちでしたか？ 過去にどんなことがありましたか？」という質問をすると、みんな病状がもっと悪くなる。ところが、「今日何をしますか？」と聞くと「読書する。」「散歩する。」「同室の人とお喋りします。」

過去に何があったか質問すると、みんな自己肯定感がドーンと下がっていくのですが、確かに選べない状況の中で・選びたくないものの中で生まれて来たかもしれないけど、今日どんな行動を取るか・何を選ぶか、今は選べるものがたくさんある。それに気づき出して、「今日アレするつもりです。」「コレするつもりです。」「こんなこともやりたいと思っています。」上向くんです。みんな。

昔あったことに関心を向けさせると、みんな無気力になる。なぜなのか。

彼が言うには、過去は変えられないから。変えられないことに支配されていると宿命論。

“どんなに頑張っても、暗い生き立ちの人は大した人生にならない”という考えに支配されていると、やってみようという気持ちが萎えます。やる前から“もう無理！”敗北意識に支配されてしまう。

彼は、「人生の中には選べないことがあるけど、選べないことよりも、選べることのほうがはるかにたくさんある。どの時代に生まれるのか、何人（なにじん）として生まれるのか、どの家庭に生まれるのか、どの両親から生まれるのか、そんなの決めることできない。自分で選べない。

だけど、そうやって与えられた人生の中に、選べる選択肢はいくらでもある。

選べないことと、選べることの組み合わせでできているのが人生。

選べないことに目を向けると『私はもう駄目だ』になるけど、選べることに目を留めたらどうだろう。

良い選択をすると魂の良い充足がある。良い充足のためには、良い人間関係を持たなければならない。」

それで、穏やかで暖かい人間関係を結ぶためのノウハウを教えていったんです。凄いことが起こりました。アメリカにベンチャー女子学院があります。問題行動を起こして来た 14 歳から 21 歳の女性が収容される保護施設。ここは、出たとしても再入所率 90%でした。

ところが、“人生は選択で変えることができる”というこのプログラムを実践したところ、戻って来るのが 12%になったんです。導入して翌年ですよ。

彼はこう言ってます。「この手法のお手本はイエス・キリストです。神は決して無理強いされる方ではない。しかし、『人生には選択がある。良いほうを選びなさい』といつも励ましておられる。」

もう 1 つ。アメリカ軍の傷痍軍人が入院するウェスト・ロサンゼルス病院。

ここの 206 号病棟は、（これは言うてはいけない言葉かもしれませんが、本に書いてあるとおりに言いますね）廃人病棟と言われているんです。重度の精神を病んだ 210 人の元軍人たちがいるのですが、退院できるのは年間 2 人だけ。平均の入院期間が 15 年ですよ。

“人生は宿命論じゃない。変えることができる。どんなに落ち込んで行ったとしても、落ち込んだところから選択肢は必ずある。それを選んで人生を変えることができる”

このプログラムをやって、その翌年 75 人が退院したんです。今まで 2 人ですよ。75 人。約 40 倍。

再入院者は 3 人だけです。

人が私の右の頬を打つのを、私はやめさせることはできない。それに対して殴り返すという選択もある。

が、殴り返さずに左のほっぺた出す。これは、余裕なんですね。気にも留めない。颯爽と生きて行く。

そら、理論では分かるけど、そんなん出来るんかいな？

私もクリスチャンになってから、ある人物を赦すのに 20 年かかったんです。

つついクリスチャンになる前の考え方の癖に戻ってしまうところがあったのと、こういう聖書的手法がよく分からなかったことの両方があったんですけど。

酷い目に遭った人が、どうやって良いほうを選ぶことができるのか。

もう心折れてる。折れてて、どうにも出来ないじゃないか。キリストはそのこともよくご存知です。

否定的な、恨みがましい、苦々しい思いから、どのように解放されていくのか。

キリストと繋がることによってなんです。

このイメージとしてすごく分かりやすいかなと思って、たとえばにはちょっとふさわしくないかもしれませんが、漫才コンビのオードリーをご存知ですか？ 春日と若林。若林という人 賢いんですね。あの方。

いや、春日がバカと言ってるんじゃないですよ。

お笑いの機転が利く人って、やっぱり頭の回転が速いと思います。彼がある YouTube で言っているのを聞いて「おっ！」思わずメモしました。「ネガティブの反対はポジティブじゃない。没頭だ。」

ネガティブになっている時は「俺はもう芸人としての限界だ。これ以上売れっ子になれない。」

気が滅入って、自己評価がどん底にまで落ち込んで、過去の嫌な思い出に帰って、暗くズドンと沈んでいる時、「ポジティブになろう！」と頑張ってもね、無理や。なろうとすら思わない。

どうしたらいいのか。没頭することだ。何に没頭するのか。

彼が言うには、好きなことに没頭する。その時は嫌な気分になってない。心から熱中できること、好きなことに没頭している時は、嫌な気分は晴れてます。でも、好きなことをやめたら また戻るやんか。

たとえば、自分たちの芸の底が浅くて、人気と実力が合致していない。どうしたらいいのか、悩んで悩んで。悩んでいる時に見ているのは、自分自身のふがいなさですよ。ふがいなさに注目して元気になる人はいない。では、どうしたらいいのか。

憧れの芸人や名人と言われている人の芸に没頭する。一ファンとして没頭するうちに、なんで芸人を目指したのかという原点を思い出す。そのうち、あまりにもファンなので、その名人の芸が乗り移って来て、何となく自分にも出来そうなの…。

自分の力では出来ないの、崇拜している人のキャラクターと繋がることで、そのキャラクターからエネルギーをもらって乗り越えていく。

ピッタリのたとえじゃないけど、限界感じている芸人が名人と繋がることで、名人が持っている良さが乗り移って来て「よーし！」という気持ちになる。そのように、人生の中でどん底に沈んでいる人を救うために来られた、人となられた神／イエス・キリストと繋がることなのです。

イエス・キリストと繋がると何が始まりますか？ キリストと共に歩む人生が始まりますね。

クリスチャンになって「私はクリスチャンです」と初めて言う時、むちゃくちゃ緊張したりします。

或いは、クリスチャンなのに願っていたことが成らなかった時「なんでなんですか！」

しかし、後にその意味が分かって「ああ、成らなくてよかった。」 そんなんいっぱいあります。

ただの名人じゃない。人となられた神、その人格が私を愛して、「高原、おまえと一緒に歩むと楽しいわ。面白いわ。」

今が充実すると、昔の嫌なことってドンドン小さくなるんです。今が不幸だと、昔の嫌なことが決定的原因に見えて来ますね。今がドンドン充実して今を生きていたら、過去を生きていない。同時に別々の時点を生きることはできません。

今キリストと共に生きて、充実して満たされて喜んで生きて行くと、過去の人生の中で魔王のように見えた存在が通行人Aになります。赦すとか赦さないとかいうより、どちらでもいい存在になるんです。それは、過去とがっぷり四つで組み合って乗り越えたというんじゃない。キリストと繋がる。

過去にばかりこだわっていたら、キリストが味あわせたいと計画なさっている素晴らしい祝福を味わい損ねることになります。キリストは私たちの祝福、幸せを願っておられるんです。だから、「いつまでも しょうもないことに繋がれているのをやめて、わたしと一緒に、神が準備した素晴らしいプランを生きてみないか。」

キリストはそのことを経験させたいので、**悪い者に手向かってはいけません。**

悪い者といつまでも関わり続けて、その人のことばかり考えて…。

それよりも、良いものと一緒に歩まないか？

良いものと一緒に歩いてどうなるんですか？ どうなるか分かりません。

しかし、どうするかは今 自分で決めれるんじゃないですか？ 良い選択をすると良い結果になるんです。

③なぜ主はそのように命じたのか。

ひと言で言うと、キリストにはそれを命じる権威があるからです。

**43. 「あなたの隣人（となりびと）を愛し、あなたの敵を憎め」と言われていたのを、あなたがたは聞いています。**

エッセネ派というユダヤ教の集団があったんです。その共同体の中に この文章がありました。

**44. しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。**

何度も言いますが、これが出来ないとかリキスチャンになれないのではありません。

そうではなくて、キリストはこれをなさった方なのだ、と言いたいのです。

私たちは、自分でも出来ないことを人に要求している人を見ると、「それやったら、自分でやって見せてくれや。」「そんな無理難題、そんなこと出来るヤツ、おらんぞ。」「自分でも出来ひんのに、無理な要求すんな。」 そんな反発心がありますよね。

しかしキリストは、自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈った方。

この方は拳で打たれ、棒で殴られ、鞭打ちされ、釘で打ち付けられ、槍で突き通され、その十字架の上で「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分で分からないのです。」

「罪に対する罰は、わたしの上に下してください」という意味の祈りをなさったんですね。

キリストの十字架を見るならば、罪というのは、決してないがしろにされていいものではありません。必ず罰を受けます。神は正義の方ですから。

しかしその罰は、罪を犯した本人にではなく、まず十字架に掛かったイエス・キリストの上に下ったんです。キリストが十字架に掛かることによって、「罪には必ず裁きがある。その裁きはこんなにも苦しんだぞ！」ということを見せられた。同時に、「こんなに苦しい裁きは、今、わたしが 1 人で受けている。だから、わたしをシェルターにして逃げ込んで来る者は、誰もこの裁きにあうことはない。」

2日前 国連の安全保障理事会で、ウクライナに攻め込んだロシアに対する非難決議、そして即刻撤退決議が討議されました。冒頭、ウクライナの国連大使が非難決議案を出しました。

「いかに無残で恐るべきことか。即戦闘をやめて軍隊を全部引き上げるべきだ。そして、この問題について非難してもらいたい。」 常任理事国はロシアなんです。拒否権持っている。「ニエツト／拒否」。

こんなにあからさまな国際犯罪があっても、非難することさえ通用しないんですね。

結局 決議案止まりで、決議されずに終わったんです。

その後で、ウクライナの国連大使が続けて話しましたね。ご覧になりましたか？

クリミア半島（ウクライナの南の方）とウクライナ本土の間に橋が架かっています。その橋の上をクリミア半島からロシア軍の最新の戦車が続々と来る。こんなのが入って来たら、ウクライナは一溜まりもない。どうするか。橋を落とすしかない。そこで、ウクライナの若い海兵隊工兵が橋に爆弾を仕掛けるんですね。しかし、ロシア軍があまりにも迅速で、仕掛けて・逃げて・それから爆破するという予定の通りにすると、自分が逃げている間に、大半のロシア戦車がウクライナ本土に上陸してしまう。

その時彼は、ウクライナ軍で戦っている兄貴に電話して、「兄さん、自爆するわ。祖国のために頑張って。」そして自爆。橋が崩落し、その修復に非常に時間がかかって、ウクライナ軍は時間を稼ぎ、体制の立て直しをすることができたんです。祖国を守るために自分の1つしかない命を献げた。

その国連大使は「彼に栄誉勲章を与えることを、大統領が決定しました」と言いました。

自分たちを生かすために死んでくれた若者があると考えた時、勲章を献げて感謝したい。

時間を稼いで、雪解けが始まって、ぬかるみになって、ロシア軍が立ち往生する。

そこまで決定的ではないかもしれないけれど、彼はそれをやってくれた。

その人に対する感謝の念は、人として自然なことだと思うんです。

しかし、私たちの上に振り降ろされようとしていた永遠の裁きをくい止めるために、キリストはあの十字架の上で自爆してくださった。キリストのこの完全な犠牲のゆえに、私たちはいかなる罪人であっても赦していただくことができるのです。そして、この方は死んで3日目によみがえってくださいました。

最後に、1つお話して終わらしましょう。

十数年前 ハワイに行った時、ホノルルだったと思いますが、拘留所の形をした教会があるんです。

日系人の大きな教会。もちろん白人の人たちもたくさんいます。そこで講演を依頼されて300人くらい来られました。その後でアメリカ人のクリスチャン女性を紹介されたんです。日本語はできません。

少しの挨拶だけで終わったのですが、昨日までこの方の証しがあったと。

クリスチャンホームで育て、彼女もクリスチャンです。ノンクリスチャンの男性と10代で結婚しましたが、アルコール依存症。普段は穏やかですが、一旦飲んで暴れ出すとムチャクチャする。

初めはそれでもなだめていたけど、2年3年経ったある時 深夜に酔っぱらって、家の中の物 テーブル ひっくり返し、鏡割り、窓ガラス破って、メツチャクチャに暴れ出した。

2階で寝ていた彼女は1階に下りて、「あなた、やめて！」「俺に歯向かうのか！」 包丁を持ち出して、彼女を約30回刺したんです。血の海。この男は彼女を置き去りにして、車に乗って逃げて行きました。

悲鳴を聞きつけた近所の人が、すぐに救急車を呼んで緊急手術。一命を取り止めて回復した後、顔や首や色んな所のたくさんの傷ができるだけ分からないようにと、何度も何度も整形手術を受けなければならなかった。傷跡はもう見えないようになっています。

